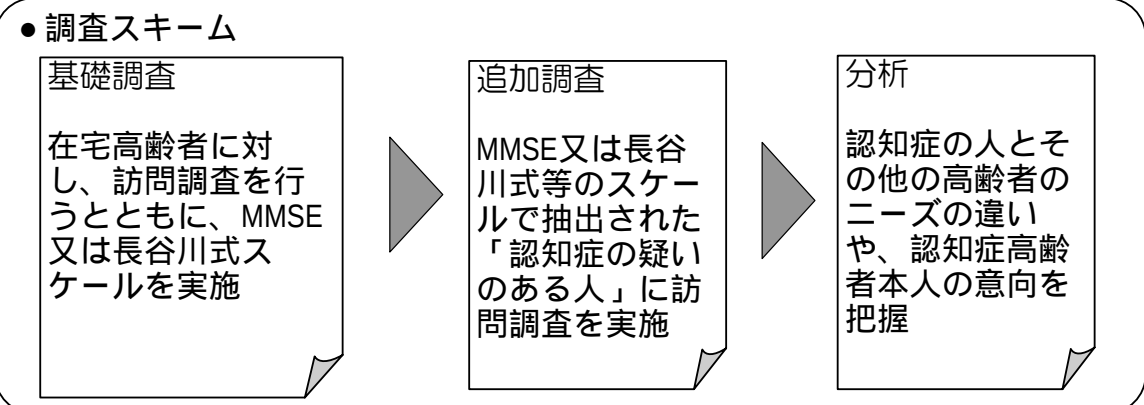
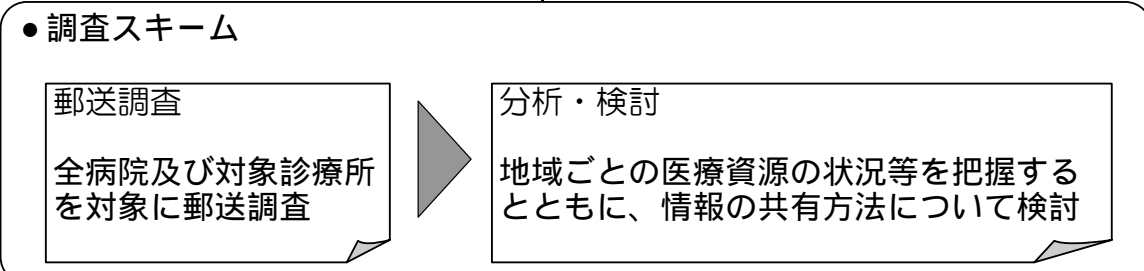
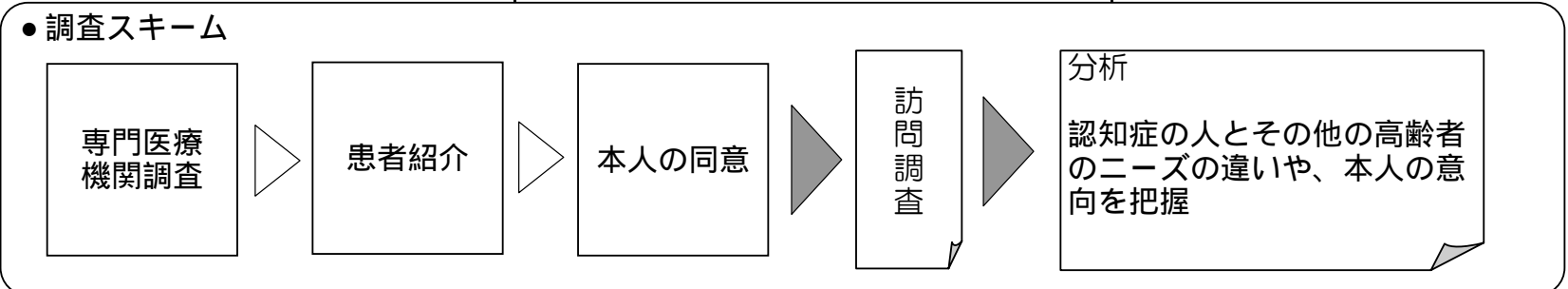


認知症実態調査の概要について

調査名	対象	概要	項目案
認知症高齢者生活実態調査	在宅高齢者及び家族（介護者）	認知症の疑いの有無、活用している社会資源、生活上の不安、希望等について訪問調査を行い、本人及び家族のニーズを把握する。 ● 調査スキーム 	認知症高齢者の状態はどうなっているか 基本属性、既往歴、世帯の状況、住まい等 早期気づき、受診するためには何が必要か 認知症に気づいた時期、気づいてから受診までの期間、気づいた症状 受診先、診断時の進行程度、告知の状況、受診する際に困った点 等 認知症の本人が地域で継続して暮らすために何が必要か 日常生活状況（ADL）、家の中での事故、不安、趣味・関心、外出度 あるもの・こと、介護保険サービスの利用状況、インフォーマルサービスの利用状況、その他社会資源の利用状況、経済状況、周囲との関わり 介護する上で問題となる点は何か 主たる介護者の属性、介護状況（内容・時間帯）、介護者が必要とする支援、介護者の相談先
認知症専門医療機関実態調査	・都内全病院（約670） ・認知症関連学会（日本老年精神医学会・日本老年医学会・日本神経学会）所属医師の勤務する一般診療所 ● 調査スキーム 	認知症の診断の可否・入院の可否、主な検査方法、合併症対応の可否等について調査を行い、都内医療資源の状況を把握する。	認知症の治療について 診断可能な原因疾患、家族へのアドバイスの有無、診療科目・専門外来の有無、実施している検査、受診形態、周辺症状への対応の程度、入院・外来患者数、医師数 身体合併症の治療について どの程度対応可能か（外来・入院・他院紹介・その他）
若年性認知症生活実態調査	若年性認知症本人及び家族（介護者）	活用している社会資源、生活上の不安、希望、経済状況等について訪問調査を行い、本人及び介護者のニーズと認知症高齢者との違いを把握する。 ● 調査スキーム 	認知症高齢者生活実態調査項目に加え、 経済状況（ローンの有無）、就業状況、希望する将来の過ごし方